翻訳にあたってのヒント
その 95

● 日本の国歌である「君が代」に秘められた意味、日本とユダヤの関連性

「君が代」の英訳は、「Imperial reign (title of Japanese national anthem)、His Majesty's reign、 Reign of Your Majesty、Japan's national anthem、the national anthem of Japan」などであるから、ここで言う「君」とは天皇のことを指し、「天皇の治世がいつまでも続きますように」という願いがその歌詞に込められているという。

しかし、その歌詞が 10 世紀初頭に編纂された『古今和歌集』にある和歌からとられているということで、現代語とは違うということもあり、やや意味がとりにくい内容である。

「君が代は　千代（ちよ）に八千代（やちよ）に　細石（さざれいし）の　巌（いわお）となりて　苔（こけ）のむすまで」

一応、私なりに大まかな意味は知っていたが、もっと深い意味があるのではないかと調べていくうちに、あるサイトにたどり着いた。

それによれば、その意味はヘブライ語で解釈すると、「立ち上がれ！神を讃えよ！神の選民であるシオンの民は、人類を救う残された民として喜べ！人類に救いが訪れ、神の予言が成就した！全地あまねく宣べ伝えよ！」だというのである。

以下に自分なりにまとめたその裏付け資料を掲載する。

① 君が代は　→　「クム (koom＝立つ・起き上がる)・ガ (gaah＝立ち上がる・相手を誉め称える)・ヨワ (YHWH＝ヤーウェー＝ヨーワー・神のなまったもの)」　→　「立ち上がって神を誉め称えよ！」:

「君」という文字には「あなた」という二人称、そして「君主」という二つの意味がある。それ故、「君が代」は、一般庶民を指した「あなたの代」、もしくは「天皇の御代」、いずれの意味にも解することができ、本来の意味がどちらかは不透明なままです。「君が代は」のフレーズは、ヘブライ語で「クム・ガ・ヨワ」という３つの言葉に分けられます。「クム」はヘブライ語の　(koom、クム）が語源であり、「立つ、または起き上がる」ことを意味します。　(gaah、ガ）には、「クム」と類似した「立ち上がる」という意味だけでなく、「相手を誉め称える」というニュアンスも含まれていることに注目です。そして「ヨワ」は神を意味するヤーウェーの発音が多少訛ったか、YHWH に任意の母音を付加したものでしょう。YHWH という神聖な神の名を意味する言葉は、人間が発音できないように当初から母音が無いため、任意の母音を充てて「ヤーウェー」とも「ヨーワー」とも発音することができます。すると「キミガヨワ」は、ヘブライ語で「立ち上がって神を誉め称えよ！」と解釈できます。

② 千代（ちよ）に八千代（やちよ）に → 「ヤ（神）・チヨニ（シオンの民）」 → 「シオンの民、神の選民」 → 「神の選民であるシオンの民は」:

「ちよに」は「シオンの民」を表現するもの。残りの歌詞も引き続き、ヘブライ語で解釈できます。「チヨニ」は とヘブライ語で綴りますが、これは一般的な言葉でもあり、「シオンの民」を意味します。それ故、神を意味する「ヤ」を付加して「ヤ・チヨニ」とすれば、「神の（シオンの）民」、または「神の選民」と理解できます。つまり「千代に八千代に」は、ヘブライ語で「シオンの民、神の選民」を意味したのです。

③ 細石（さざれいし）の → 「サザレ → サ＝サッ（sas 喜ぶ）・サリード（sareed 残りの民・選民）が合わさった語」「イシ＝yesha［救い］＋イノシュ＝enosh［人間・人類］）＝ → 「人類を救う残された民として喜べ！」 :

次に「サザレ」ですが、これはヘブライ語で「サッ」と「サリード」と発音する２つの言葉が合わさった言葉です。（sas、サッ）は喜ぶ、（sareed、サリード）は「残りの民」、「選民」を意味します。すると直訳で「残りの民として喜べ！」という意になります。そして「イシノ」は、「イシ」というヘブライ語で救いを意味する YESHA に、(enosh、イノシュ)という「人間」、「人類」を意味する言葉が語尾に付加して、「イシィノ（シュ）」という言葉になり、「人類を救う」という意味になります。すなわち「サザレイシノ」はヘブライ語で、「人類を救う残された民として喜べ！」と、歌っていたのです。

④ 巌（いわお）となりて → 「イワ（yhwh=神）」「イワラ（iwaraa＝ヘブライ系ユダヤ人）」「イフディ・イワデ（yehuudi＝神の民）→ イワは神を象徴する言葉（イエスキリストも『救いの岩』と呼ばれる）」「オト（ot＝印・サイン）」「イワオト（神の印・証）」「ナリテ・ナリタァ（nali-atah=成就する・完成する）」「アタ（来る）」 → 「人類が救われ、神の予言が成就した！」:

次に「イワ・オト・ナリテ」という３つのヘブライ語が続きます。「イワ」は、神を意味するヘブライ語の子音 （yhwh）に任意の母音をつけて、日本流の「神」の呼び名、「イワ」となりました。また、ヘブライ系ユダヤ人のことをアラム語では「IWARAA 」、「イワラ」と呼んだり、神の民を「YEHUDI」、「イフディ」、「イワデ」と呼んで、それらに「イワ」という発音が含まれるのも、そこに「神」の意が含まれているからに他なりません。新約聖書においてはイエスキリストも「救いの岩」と呼ばれているように、「イワ」は神を象徴する言葉なのです。次の「オト」は、印やサインを意味する （ot 、オト）で、神の証や予言に関わるニュアンスが含まれている言葉です。つまり「イワ・オト」と繋がることにより「神の印」や「神の証」の意となり、言い換えれば「神の予言」とも解釈できるでしょう。また「成就する」「完成する」、という意味の言葉に （nali-atah、ナリァタ）というヘブライ語があります。「ナリ」は「得る」、「アタ」は「来る」の意味があり、この２つの言葉が繋がって、「成就する」という意味になります。するとどうでしょう。「イシィノ・

イワオト・ナリタ」が「人類が救われ、神の予言が成就した！」という文章になっていることがわかります。

⑤　苔（こけ）のむすまで　　→　「コケノ・コ（ル）カノ（kol-kano＝総て-基礎・台)」「コカノ（全ての場所・全地)」「ムスマデ・ムーシュマ（mooshma＝語られる・鳴り響く、ムーシュマッテ＝女性形)」　→　「コカノ・ムーシュマッテ＝全地に語られる」　→　「全地あまねく宣べ伝えよ！」:

　　さて、「苔のむすまで」という言葉の響きは、君が代の世々限りない繁栄を詠うにしては、いまいち優れませんが、ヘブライ語で読むと、これまでの歌詞の流れに沿った文脈となり、歌全体を完結する言葉となります。「コケノ」はヘブライ語で （kol-kano）と書き、実際の発音は「コ（ル）カノ」です。「コル」は「全て」、「カノ」は基礎、台の意味が原語にあり、合わせて「全ての場所」を示唆するので、「コカノ」は「全地」を意味します。そして、歌詞の最後の「ムスマデ」は「語られる」、「鳴り響く」という意味を持つ（mooshma、ムーシュマ）です。ヘブライ語の文法上、女性形も使用されることがあり、ムーシュマッテはその女性形です。それ故、「コカノ・ムーシュマッテ」はヘブライ語で「全地に語られる」という意味になります。

⑥　石（いし）の　巌（いわお）となりて　苔（こけ）のむすまで　→　「イシノ・イワオト・ナリテ・コケノ・ムスマデ」　→　「人類に救いが訪れ、神の予言が成就した。全地あまねく宣べ伝えよ！」:

　　「イシノ・イワオト・ナリテ・コケノ・ムスマデ」を、ヘブライ語の文章として読み通してみると、そこには驚くべきメッセージが秘められていたのです。「人類に救いが訪れ、神の予言が成就した。全地あまねく宣べ伝えよ！」と。

⑦　　「君が代は　千代（ちよ）に八千代（やちよ）に　細石（さざれいし）の　巌（いわお）となりて　苔（こけ）のむすまで」　（ヘブライ語の意味：　「立ち上がれ！神を讃えよ！神の選民であるシオンの民は、人類を救う残された民として喜べ！人類に救いが訪れ、神の予言が成就した！全地あまねく宣べ伝えよ！」）

＊＊

上記の出典：　～「君が代」に秘められたユダヤルーツ～

①　【　http://judea.naritacity.com/journal_japan_080115.asp　】

②　【　http://judea.naritacity.com/journal_japan_080215.asp　】

③　【　http://judea.naritacity.com/journal_japan_080315.asp　】

④　【　http://judea.naritacity.com/journal_japan_080415.asp　】

＊＊

＊＊

バジル・ホール・チェンバレン（http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%90%E3%82%B8%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%81%E3%82%A7%E3%83%B3%E3%83%90%E3%83%AC%E3%83%B3）はこの日本の国歌を翻訳した。チェンバレンの訳を以下に引用する[3]。

A thousand years of happy life be thine!　汝（なんじ）の治世が幸せな数千年であるように

Live on, my Lord, till what are pebbles now,　われらが主よ、治めつづけたまえ、今は小石であるものが

By age united, to great rocks shall grow,　時代を経て、あつまりて大いなる岩となり

Whose venerable sides the moss doth line.　神さびたその側面に苔が生（は）える日まで

まあざっとこんな具合だが、他にも我々の身近なところでもヘブライ語が日本で使われている。以下参照。

● 日本人とユダヤ人はつながっている！

日本の天皇は別名で帝（みかど）と言われますが、これは日本にまではるばるわたってきたガド族がなまって「ミ（御）・カド」と呼ばれたことから来ているのではないかと言われています。その証拠にヘブライ語と日本語で発音と意味が同じものが 600 語以上発見されており（住む、書く、拍手など）、御輿を担ぐ時の掛け声である「エッサ」は「運ぶ」という意味であり、「ワッショイ」は古代ユダヤ語で「お前の敵をやっつけろ」という意味です。また、姿・形からして日本の神輿は、古代イスラエルの契約の箱だとも言われており、さらに、本当のユダヤ人とは人種的に言うとセム系であって、モンゴロイド（つまり我々日本人と同じ人種）であるから、白人ではないのです。またあの PLO のアラファト議長は自分はユダヤ人だと主張していましたが、それは本当のことです。今のパレスチナにいるパレスチナ人達が古代イスラエル人と血統的につながりがあるということは否定できない事実です。（しかし、イスラエルにいる国民は白人が多いですが、彼らは元々トルコの北にあったカザール帝国にいたユダヤ教に改宗した白人系人種［トルコのコーカサス地方から来たトルコ系の白人、ここから白人を意味する Caucasian という語が生まれた］の末裔であるアシュケナージで、本当のユダヤ人であるスファラージは少数派になっています）。ユダヤ人というと白人がイメージされますが、実はこうしたユダヤ人達はこれらカザール人の末裔で、ディアスポラ（離散）により世界に散らばった、人種的にはユダヤ人（＝ヘブライ人・イスラエル人）ではない民族であり、宗教がユダヤ教であるということでユダヤ人としてくくられている人達です（無論かなり異人種との混血を経ているので、特にアングロサクソン系との混血の末裔となるとその面貌や体つきはほとんど白人と見分けがつか

ない)。ノアの箱舟で有名な大洪水のあとの第２の人類の父となるノアの息子は、「セム＝黄色人、ハム＝黒人、ヤペテ＝白人の祖先」です。そしてこの「セム」の子孫が、アブラハム（後に子孫に、正妻サラを母親とするユダヤ民族［イサクが長子］が、そしてエジプト人の女奴隷であったハガルを母親とするイスラムを信仰するアラブ民族［イシュマエルが長子］が出る)、ダビデ、ソロモン、イザヤ、さらに、イエス・キリストを含む全てヘブライ人なのです。ヤコブも「セム」の直系であり、イスラエルの十二士族全ても「セム」の子孫、すなわちアジア系民族ということです。本当のユダヤ人とはアジア人です。

しかも、日本語のかなやカタカナは古代ヘブライ語からつくられたという資料もあります。(考案者は空海＝弘法大師だと言われる。)

さらに京都の「祇園祭り」ですが山車の飾りを見ると、「鳥、宮殿、ラクダ、エジプト、ピラミッド、イサクに水を供するリベカ（旧約聖書 創世記 24 章)」が描かれているものがあったりと、日本人とユダヤ人とのつながりがはっきりと見て取れます。「祇園祭り＝ギオン＝ズィオン＝シオン祭り」です。加えて、伊勢神宮の街道に六芒星が刻まれた塔が立っていたりと、神道とユダヤ教の共通点は非常に多いです。

堺市にある、日本最大の「前方後円墳仁徳陵古墳（全長［墳丘］486 メートル、面積約 46 万平方メートル)」(エジプトのクフ王のピラミッド、中国の秦の始皇帝陵と並ぶ世界 3 大墳墓の一つ）は、その姿・形からイスラエルの三種の神器の一つである「マナの壷」をモチーフにしたものであることも明らかであり、この三種の神器（他の二つは十戒の石板とアロンの杖）を収める契約の箱（失われたアーク）は現在でも四国の剣山（つるぎさん）にあるのではという説があり、歴代のイスラエルの聖職者達が何人もここを訪れています。その理由は、この箱を手にした者が全世界を支配することができると言われているからです。しかも日本の三種の神器（八咫鏡・草薙の剣・勾玉）もこれらの神器がルーツではないかという説もあるほどです。（日本とユダヤのハーモニー【http://judea.naritacity.com/journal_japan_030315.asp】)

日本とユダヤは確実につながっています。

★★★★★　他の資料　★★★★★

● 「ヘブライ語・ユダヤ」と「日本語・日本」との関係：

①　伊勢の地名そのものもまた謎であるが、ユダヤ人研究家によればヘブライ語の「イェシェ」から派生した言葉で『神の救い』という意味であるそうだ。

②　日本の神話の元であり、古文書では唯一の正史として認定されている『古事記・日本書記』は彼ら渡来人の子孫が作り上げたものであるようだ。例えばイザナギとイザナミの結婚のシーンだが、天の御柱を男女の二神が逆方向に巡って出会い、その時にイザナミは

「あなにやし、えおとこを」イザナギは「あなにやし、えおとめを」と言ったと古事記にはある。この『あなにやし』とは、普通には「ああ、なんとよい男なのでしょう」という様に感嘆符として解釈されている。しかしこの意味は、日本語では本当のところは意味不明なのである。それよりも、ヘブライ語と解釈すると「アニーアシー」という言葉が近く、この意味は「私は結婚します」であるらしく、そうだとすれば古事記のイザナミとイザナギの結婚シーンと完全に附合する。この神話の冒頭のシーンは、実際にユダヤの結婚の儀式に近いものであるらしい。

③　天皇のことを「ミカド或いはスメラミコト」と呼んだりもするが、この語源はバビロニアンの「ミクド（天から降臨した、開拓者の意味）」だとし、「スメラミコトはサマリアの皇帝」という意味であり、聖書に登場するサマリア人は失われた部族に含まれる。

④　『偶像崇拝の禁止と三種の神器』

ユダヤ教では偶像崇拝を禁じており、砂漠を流浪していた時代に、戒めを破り偶像を崇拝したとしてユダヤ人は罰を与えられている。一方で日本の神道も偶像崇拝を行っていない、ご神体は一般に鏡であり、鏡に映る自らの姿に己の内なる神性を見出すためである。また岩などがご神体の場合それ自体が神ではなく、神の宿る寄り代としての役目であると認識されている。信仰の形は違っても、偶像崇拝をしないその精神は日本もユダヤも同じなのである。

更にはユダヤ人が大切にしていた『アーク』（契約の箱）には、十戒を刻んだ石板・マナの坪・アロンの杖と呼ばれる三種の神器が納められていた。このアークは神そのものではなく、やはり神の寄り代と考えられている。そして日本でも三種の神器が存在する。鏡と剣とマガ玉である。

⑤　『神殿と神社の造りの共通点』

日本の神社の造りは鳥居と参道、手水場を経て拝殿が在り、奥に本殿が建てられているというのが一般的な造りである。対してユダヤの神殿にも門と清めの場と拝殿と奥殿というほぼ同様の造りに成っている。イスラエルの会見の幕屋は、古代イスラエルの人々が礼拝する為に用いたテントのような礼拝所のことである。しかも本殿、奥殿には一般の参拝者の立ち入りは許されず、年に数度だけ宮司やラビだけが立ち入ることを許されている。この様に、両者の神殿や儀礼は非常に似通っていて、参拝者が拝殿の前に用意された清めの水で、穢れを落としてから参拝する作法も同じなのである。

⑥　『失われたアークと神輿』

「アーク」とはユダヤ人が神との契約に際し、契約を刻んだ石板を入れた大切な箱であり現在は失われて行方不明だといわれる。記録によると、このアークは蓋の両端にケルビムと呼ばれる翼を持った天子の像が付いている。アークが顕在であった時代に、人々は箱の前後に棒を通し、担いで進んだという。「その様はまるで日本の神輿」であり、神輿にも鳳凰などに見立てた鳥の飾りが付いている。

こうして例を挙げれば切りが無いくらいの日本とユダヤの共通点は多いが、他にも塩で

清める習慣や、「相撲はスモーというヘブライ語が語源」であるとか、「イスラエルのヘロデ門に刻まれている菊花紋」、「伊勢神宮の灯篭に刻まれているダビデの星」、「諏訪大社の御柱祭りと伝説のレバノン杉」などなどである。また私達が子供の頃に踊ったフォークダンスの定番『マイム・マイム』とは、ヘブライ語で『水だ、水だ』という意味であるらしい。これについては、失われた十部族とは無関係ではあろうが、何故にイスラエルの曲が教育現場へ普及とされたのかと考えると、少し不思議な気がする。

⑦　古代日本に息づくユダヤ

水上氏の著述によると、三社祭りで有名な浅草は浅草寺の「浅草神社の紋はユダヤのガド族の紋章」だという。浅草寺は千数百年の歴史を誇り、ここの紋章は「三網紋」であるが、その由来は三人の漁師が網を揚げたところ、金の観音像が引っ掛かってきた伝説に由来するらしいが、この説は真っ赤な偽物であるとする。それはイスラエルのガド族の紋章を更に簡略化し図案化したものであり、ガド族は浅草神社の氏子となった。

⑧　『平安都と琵琶湖と太秦』

古代社会でも最も有名な帰化人といえば『秦氏』であろう。聖徳太子の側近に秦河勝（はたのかわかつ）が居り、この人が宮廷での雅楽を世襲してきた東儀家の遠祖といわれている。河勝は渡来人であり、秦の苗字が示すように秦氏の出身であろう。秦氏は雅楽、絹織物、土木、農耕などの技術を持っており、その技術を背景に巨大な富を蓄え政治的にも影響力を及ぼすようになった。その秦氏が主導して作り上げたのが平安京であるという。これはヘブライ語の「イールシャローム(エルサレム)」を日本語にすると「平安京」となるのだそうだ。そればかりでなく、何とエルサレムの付近には「キネレット湖があり、これは琵琶の意味」だそうでエルサレムという街の名とキネレットという湖の名をそのまま写したのが「平安京と琵琶湖」だといえよう。そして「東映映画村で有名な太秦(うずまさ)」という不思議な地名もまた、秦氏を暗示する。彼の地は秦氏の居住した地区であるとされ、ヘブライ語の「ウズ・マシアッハ」が訛ったものと考えられている。その意味は『救い主の栄光』または『救い主の力』となるそうだ。

⑨　秦河勝の関連記事 11 件

〔 http://wave.ap.teacup.com/applet/renaissancejapan/msgsearch?0str=%82%A0&skey=%90%60%89%CD%8F%9F&x=0&y=0&inside=1 〕

上の関連記事のなかに『日本語とヘブライ語」の比較がある。「大和民族はユダヤ人だった 」の著者であるユダヤ人言語学者ヨセフ・アイデルバーグは、 カタカナとヘブライ語の驚くほどの類似性を指摘していた。また、日本語の中にヘブライ語の単語が混在していることも指摘していた。　彼は以下のような発言をしていた。「私は１４年の歳月をかけて世界各地の言語を調べあげた。世界には中南米のマヤ人をはじめ、いくつも“失われたイスラエル１０支族”の候補となる民族がいるのだが、日本語のようにヘブライ語起源の言葉を多数持つところはなかった。一般に日本語はどの言語にも関連がないため“孤語言語”とされているが、ヘブライ語と類似した単語が優に３０００語を超えて存在している。」。

● http://wave.ap.teacup.com/renaissancejapan/267.html#readmore

「祇園祭」は、古代イスラエルのシオン祭りがルーツであるとも言われており、どちらも疫病を払うもので、７月１日から１ケ月間祭りは続き、ノアの箱舟がアララト山に漂着した７月１７日にクライマックスを迎えます。これは、シルクロードの果てから、新羅経由でやってきた最強の渡来人で、実質的に日本をつくりあげた秦氏が、古代イスラエル文化を日本に伝えたものと考えられます。

「平安京」をつくったのは桓武天皇ですが、その技術･資金の大半は全て秦氏のものであり、祇園祭を主催する「八坂神社」をつくったのは秦氏であります。というか、日本の神社は八坂神社に限らず、秦氏によってつくられたものです。

古代社会でも最も有名な帰化人といえば『秦氏』であろう。聖徳太子の側近に秦河勝（はたのかわかつ）が居り、この人が宮廷での雅楽を世襲してきた東儀家の遠祖といわれている。河勝は渡来人であり、秦の苗字が示すように秦氏の出身であろう。

秦氏は雅楽、絹織物、土木、農耕などの技術を持っており、その技術を背景に巨大な富を蓄え政治的にも影響力を及ぼすようになった。その秦氏が主導して作り上げたのが平安京であるという。これはヘブライ語の「イールシャローム(エルサレム)を日本語にすると平安京となる」のだそうだ。そればかりでなく、何とエルサレムの付近には「キネレット湖があり、これは琵琶の意味」だそうでエルサレムという街の名とキネレットという湖の名をそのまま写したのが平安京と琵琶湖だといえよう。

政治の中枢が江戸に移ってからも、経済の中心として命脈を保ち続けたことは奇跡的な出来事といえるのかも知れない。その理由として私的には、やはりユダヤ以前から続く大きな文化的なベースが存在し、それがユダヤに残った伝統的なものと重なったことにより更に強化されたからだと考える。

● 秦氏 と 日本の中のユダヤ文化　　秦氏・日本とユダヤ文化

〔 http://wave.ap.teacup.com/applet/renaissancejapan/msgcate45/archive 〕

京都は、桓武天皇が、784 年長岡京に、794 年平安京に遷都し、1868 年の東京遷都までの約 1000 年の長きにわたり、日本の首都として栄えました。

その平安京の建設に、大きな貢献をしたのが、渡来人の秦氏です。秦氏一族は、中国で流浪の民とも呼ばれ、4 世紀頃に日本にやって来ました。また、秦氏に関しては分かっていない事が多いのですが、ネトリウス派キリスト教徒のヘブライ人であったとも言われています。

秦氏の拠点は、「太秦（うずまさ）」ですが、その地名の由来は、ヤマト政権に税を納める際、用いた絹が 「うずたかくつもられた」 ことから、朝廷から「うずまさ」の姓を与えられたところから来ています。

秦氏は、日本の文化・伝統に大きな影響を与え、平安京の建設に関しては、秦氏は最大の

資金提供者でも有り、土木技術は全て秦氏が指導しました。
もし秦氏がヘブライ人であったなら、エルサレム宮殿や、ピラミッド建設の技術面で中核的な役割を果たしたユダヤ人のことを考えると納得がゆきますし、ヘブライ語で「エルサレム」の意味は「平安京」であります。
秦氏で有名な人物は秦河勝ですが、彼は聖徳太子に仕え、太秦に蜂岡寺（広隆寺）を建立したことで知られています。聖徳太子がイエス・キリストのように、馬小屋で生まれたという伝説がありますが、秦氏がヘブライ人で、ネトリウス派のキリスト教徒であったなら、後に彼らがこういった伝説を作っても不思議はありません。
もうすぐ、全国各地で祇園祭りが始まりますが、この発祥の地は京都の八坂神社で、八坂神社の祇園祭が、全国の祇園祭の中心です。この祇園祭を最初に始めたのも秦氏であると言われており、7 月 17 日から 8 日間が祭りの中心となります。
実は、7 月 17 日はユダヤ、キリスト教徒にとっても大事な日であり、この日にヘブライ人は謝恩際を行っていたようで、モーゼ以降はこの祭りは「仮庵の祭り」と重なったようです。
仮庵の祭りとは、モーゼ率いるイスラエルの民が、エジプトを脱出し、カナンに達するまで 40 年間、荒野を放浪しましたが、その間、雨露をしのいだのが仮庵（スッカー）で、それを記念した祭りが仮庵の祭り（スッコート）です。
何故、7 月 17 日を祝うのか、それはノアの箱船が、アララト山に漂着した日だからです。
「第七の月の十七日に箱舟はアララト山の上に止まった」　－旧約聖書（創世記第 8 章 4 節）－

●　ヘブライ人はアジア系民族だった！

【　http://dateiwao.fc2web.com/hebmong.htm　】
ノア、セム、ハム、ヤペテ（歴代志上　1：4）　「セム＝黄色人、ハム＝黒人、ヤペテ＝白人」
　大洪水のあとの第２の人類の父となるノアは、「セム、ハム、ヤペテ」を使って箱舟造りに従事する。左図はヴァチカンの柱廊羽目板に描かれた「ラファエロの聖書」で創世記の場面が描かれている。ノアの３人の息子が伝統的に３大民族の先祖とされていたことはよく知られている。この３大民族から、全人類が成り立つと考えられている。
　ヘブライ人は白人系ではなかった。古代イスラエル人と血統的につながりをもつのは、アブラハムのときにわかれたパレスチナ人であり、当然ながら彼らは白人ではない。さらに旧約聖書にさかのぼると、人類の始祖アダムとイブ（エバ）の子孫にノアが出る。ノアの３人の息子のセム、ハム、ヤペテは、「セム＝黄色人、ハム＝黒人、ヤペテ＝白人」の祖先になったとされている。それぞれ違う資質を受け継いでいたからに他ならない。最も重要なのは、アブラハム（後に子孫にイスラムを信仰するアラブ民族が出る）、ダビデ、ソロモン、イザヤ、さらに、イエス・キリストを含む全てのヘブライ人はノアの３人の息子の

中の「セム」の子孫という点だ。当然ながら、ヤコブも「セム」の直系であり、イスラエルの十二士族全ても「セム」の子孫、すなわちアジア系民族ということなのだ。

これは旧約聖書に明確に記載されている。創世記第１１章にアブラハムの系図として 10 節から 26 節に明確な記載がある。つまり白人系の「ヤペテ」の子孫は、「セム」から生まれたヘブライの純粋な血統ではないし、イスラエル人でもないというのが厳然たる事実なのだ。

それでは今のイスラエルにいる白人系ユダヤ人とは何者か。彼らは白人系民族のユダヤ教改宗者ということで、血統的なイスラエル人ではない。ユダヤ教白人種（アッシュケナジー系）という意味でのユダヤ人なのだ。これらの人々は、紀元８世紀頃、黒海北方に存在したアーリア系白人国家「カザール」の末裔ということが歴史的に判明している。しかしユダヤ教に国をあげて改宗した「カザール」も、ビザンチン帝国とモンゴル帝国に攻め滅ぼされ、１１世紀に滅亡する。そのため、難民となった白人系ユダヤ教徒は西に移動し、ヨーロッパでユダヤ人として生きていく。

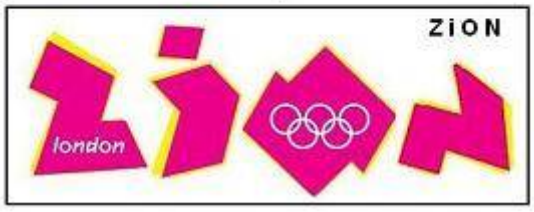
もちろん、血統的なユダヤ人の一部もヨーロッパに移り住んだが、多くのものはパレスチナの地で、仲間であるパレスチナ人と共に暮らすことになる。彼ら血統的ユダヤ人を「スファラデェイ系ユダヤ人（1960 年当時、セム系のスファラデェイ系ユダヤ人は約 66 万人と推定された)」といい、イスラエル建国と同時に約束の地に戻ったが、血統的にユダヤ人ではない白人種の「アッシュケナジー系ユダヤ人」により、差別されて下級市民として扱われている。今日のユダヤ人の 9 割以上はセム族ではない。

だが、血統的な「スファラデェイ系ユダヤ人」といえども、「イスラエルの十士族」ではない。彼らは「バル・コクバの戦い」で、ローマ帝国に逆らい、紀元後 136 年に国を失い散らされた「ユダ王国（南朝)」の末裔である。「イスラエルの十士族」とは、「イスラエル王国（北朝)」にいたイスラエル人のことで、モンゴロイド系が殆どであった。白人のユダヤ人というのは、混血でもないかぎり血統的に存在しないことになる。実際の「モーセ」、「アブラハム」「イエス・キリスト」等はアジア系有色人種なのである。これは日本人を含むモンゴロイド系民族が「イスラエルの十士族」の末裔の可能性を強く示唆している事実だ。

まだまだ資料はあるが、これにて第 95 回ひとまず終了。

おまけ

2012 OLYMPIC LOGO

Does this logo look like a puzzle?

See the answer below.